



にしく市民活動支援センター にしとも広場

2025（令和7）年度 事業報告書

管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

2025（令和7）年度運営方針と成果

「にしとも広場」は、市民活動・地域活動の「玄関口」としての役割が一層求められていると考え、2025年度はこれまでの取組を基盤に、市民活動・地域活動における**ハブ機能の強化**を目指しました。そのため、次の3つを重点事業の柱として運営しました。

●職員自身がネットワークの結節点となる

昨年度に引き続き、職員のスキルアップに取り組みました。日常の相談対応や活動者との対話、アウトリーチを通じて、職員自身が情報の受発信拠点となれるよう努めました。特に、取材を通じたアウトリーチでは、多角的な視点と現場感覚を得ることができ、人と人、人と活動をつなぐ結節点としての実践力・提案力の向上につながりました。また、内部研修・外部研修への参加を積極的に進め、豊富な選択肢と確かな知識を身につけるため、一人ひとりが継続して学びました。

●集めた情報をわかりやすく発信する

市民活動・地域活動に関する情報を集約し、西区に転入した方、初めて地域活動に参加する方、外国につながる方、多様な世代の方など、だれもが手に取りやすい形に加工して発信しました。ホームページを大幅にリニューアルし、スマートフォンからも快適に閲覧できるよう改善しました。SNS（Facebook・Instagram）では、事業告知だけでなく、開催報告やセンターの日常、地域活動の“活きた情報”を発信し、地域活動への参加のきっかけづくりと、センターの認知度向上につなげました。

●西区全体をフィールドに、暮らしに寄り添う事業を展開する

区内唯一の市民活動支援センターとして、区全域をフィールドと捉え、地域の活動団体や区民利用施設等と連携し、暮らしに近い場所で、だれもが参加しやすい事業運営を検討しました。特に、こども食堂や学習支援など、社会課題に寄り添う事業は、センターだけでなく、ニーズの高い区民利用施設へとコーディネートしました。センターがハブとなって事業をつなぐことで、協働するそれぞれが力を発揮し、相乗効果が生まれました。

次年度に向けて

今年度の3つの柱を踏まえ、次年度はセンターが市民活動の玄関口としての役割をさらに強化し、地域活動へのアウトリーチと情報発信に、より一層力を入れていきます。

1. 相談事業

◆市民活動・地域活動の「玄関口」としての相談対応の充実

- ・活動者、活動団体、地域に暮らす個人など、さまざまな相談に真摯に対応し、中間支援組織として新たな視点からの提案や、相談者のエンパワメントを心がけました。
- ・市民活動・地域活動に関する幅広い情報の中から、相談者にとって適切な情報と多様な選択肢を提供できるよう、職員自らが常にアンテナを高く持つことを意識しました。
- ・来館者との日常の会話や登録時のヒアリングからも相談の糸口を見つけ、次の支援につなげました。

1) 活動につながる相談支援

- ・相談をきっかけに、センターが有する機能をはじめ、市民活動・地域活動団体、区役所、関連機関、区民利用施設へコーディネートしました。
- ・俯瞰的な視点からアプローチし、活動のねらいを共有しながら、相談者だけでなくコーディネート先とも丁寧に連携し、継続的に伴走支援を行いました。

2) 相談データベースを活用した相談事業の周知と情報発信

- ・相談記録データベースを活用して相談内容を可視化し、センターの相談機能や地域性の強みを行政や関連機関に周知しました。

3) NPO 相談対応

- ・横浜市市民協働推進センターを運営する当法人の強みを活かし、市内の先駆的な活動事例の紹介など、NPO や団体運営に関する相談に対応しました。

2. 情報提供・発信事業

◆市民活動・地域活動における「ハブ機能」の充実

- ・市民活動・地域活動に関する多様な情報を、受け手の立場に立って整理し、複数の媒体を活用して発信しました。
- ・ホームページとデータベースをリニューアルし、スマートフォンからもアクセスしやすい環境を整備しました。
- ・センターが発行する広報物は区内施設等へ直接持参し、顔の見える関係づくりを進め、相談や事業コーディネートにも活かしました。

1) タイムリーな情報発信と伝わる発信

①市民活動・地域活動取材し、わかりやすい言葉で発信

「地域活動訪問レポート」

- ・職員が、地域活動の現場を直接取材し、市民の視点でわかりやすくまとめたレポートをホームページで発信しました。（取材先 10 ヶ所）
- ・取材を通じて活動者や施設等との信頼関係が深まり、ネットワークづくりにもつながりました。

取材日	取材先	開催場所
5/22	趣味の教室「ぬり絵で絵画入門」	野毛山荘
5/26	伊勢一親子ひろば	伊勢町一丁目町内会館
6/15	ちくせんふえ	西地区センター
8/15	お母さんとお子さんのくつろぎスペース「ぴよぴよ」	山の上教会グレイスチャペル
8/27	ブリリアコミュニティ「井戸端サロン」	ブリリアグランデみなとみらい
9/7	地域防災拠点訓練（第2地区）	西前小学校
10/29	「みらい工房西」リハビリ教室	藤棚地域ケアプラザ
11/2	にしろく・ふれ愛寄席	三ッ沢ハイタウン集会室
1/21	とべとべサロン	戸部コミュニティハウス
2/24	おやじの時間	戸部本町地域ケアプラザ

②ホームページ・SNS（Facebook・Instagram）でのタイムリーな情報発信

- ・主催事業、登録団体の活動、地域のイベントなどをタイムリーに発信しました。
2025年4月～2026年3月末現在：投稿数 93 件
Facebook フォロワー：804 人／Instagram フォロワー：201 人
- ・センターの日常の様子も発信し、来館につなげました。

2) ホームページ・データベースのリニューアル

- ・スマートフォンから閲覧しやすいホームページに刷新しました。
- ・地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」のデータベースをリニューアルし、ホームページと連動させ、最新情報を提供できる環境を整えました。

3) 地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」の登録更新とガイドブックの発行

- ・地域人材ボランティアの登録を3年ごとに更新し、最新情報を掲載したガイドブックを作成しました（発行部数 300 部、就労支援事業所に作成依頼）。
- ・ガイドブックは区民利用施設、地域活動団体に加え、今年度からは区内高齢者施設にも配布し、コーディネートにつなげました。

4）情報紙『にしとも広場』（A4/8 ページ/カラー）の発行

- ・ 区内のユニークな活動を紹介し、市民活動・地域活動に役立つ情報を発信しました。
- ・ 取材と発行を通じて、活動者や団体、地域がつながるきっかけとなり、今後の活動活性化にも寄与しました。
- ・ 第 25 号（2026 年 3 月/3000 部発行）では、「西区今昔かるた」制作者・伝道師の座談会や、地域で活動する個人のインタビュー記事を掲載し、街への愛着が活動の源にあることを伝えました。

第 25 号テーマ「このまちが好きだから」

特集①：「西区今昔かるた」座談会

～みんなで語る、制作の楽しさ・つながる喜び～

札に込められた街への愛着、かるた大会での心温まるエピソードなどを紹介。

特集②：インタビュー 私たちもこの街が大好きです

趣味・特技・仕事で培った技能を活かして活動する 2 名のインタビューを掲載し、暮らす街への愛着が活動の源であることを発信しました。

・登録団体インタビュー：にしすぎ PC 教室

活動のきっかけ、地域とのつながり、活動への想いを紹介しました。



5）月間イベントカレンダー（A4 両面/2 色刷り/毎号 800 部）の発行

- ・ 「にしとも広場イベントカレンダー」を毎月発行し、当月版・次月速報版を 15 日時点の情報で作成しました。
- ・ 区民利用施設や関連施設等に直接出向いて配架を依頼し、区連会や民児協とも連携して広報を拡大しました。
- ・ カレンダーの情報はホームページ・Facebook・Instagram にも掲載しました。



6) 展示スペースの活用（壁面ギャラリー・小箱ギャラリー）

- ・ 地域人材ボランティアや活動団体に、作品披露や活動周知の場として活用を呼びかけ、展示につなげました。
- ・ 10/1-11/10 には「第5期にこまちプラン（西区地域福祉保健計画）素案」区民意見募集箱を設置しました。

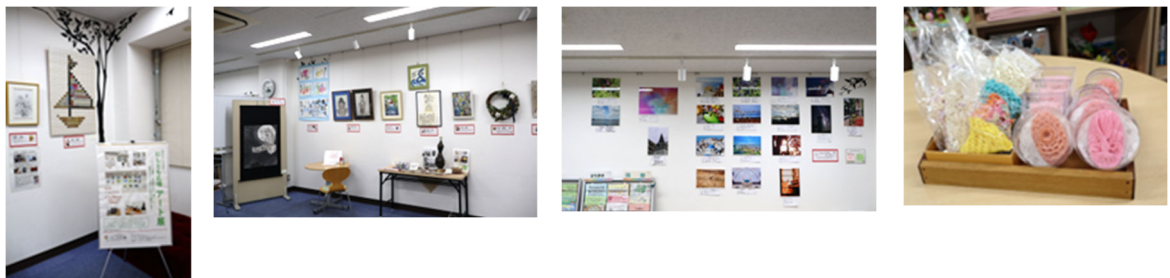
【壁面展示】

展示期間	展示内容	主催
5/23-6/20	野毛山インクルーシブ構想	横浜障がい相談ねくさず
8/1-31	地域のまつりワークショップ①	にしとも広場
9/4-9/23	バリアフリー図書展示	中央図書館
10/6-30	地域のまつりワークショップ②	にしとも広場
11/1-30	にしとも広場アート展	にしとも広場
3/15-31	地域のまつりワークショップ③	にしとも広場



【にしとも広場アート展】

- ・ 11/1-30 に実施した「にしとも広場アート展」には 13 組が出展し、写真サークルの展示も同時開催しました。
- ・ 多様な方々に活動を身近に感じてもらう機会となり、アンケートでは 137 件の回答が寄せられ、今後の活動の励みとなりました。



7) 市民利用施設等イベント情報・広報よこはまへの掲載

- ・ 主催事業を中心に、「市民利用施設等イベント情報・広報よこはま」を活用し、効果的に広報しました。
- ・ 「お知らせピックアップ」への掲載は幅広い周知につながりました。
- ・ 「広報よこはま西区版」の作成にあたり、地域活動紹介の取材に協力しました。

8) 区民利用施設連携会議「ゆるとも西」を活かした情報発信

- ・情報紙や月間イベントカレンダー等を区民利用施設に直接配布し、タイムリーな情報交換を継続することで、施設および事業運営の相談につながりました。（区内 28 施設）
- ・区民利用施設自主事業カレンダーを半期ごとに作成、随時更新し、各施設間の連携、情報発信に活かしました。この取組みは区外の関連機関等からも注目されました。
- ・自主事業カレンダーを事業計画の立案に各施設が活用することについては、今後の課題です。

3. 活動団体のマネジメント支援及びネットワーク支援事業

◆活動のはじめの一步からステップアップまで、個々に合わせた伴走支援

- ・これから活動を始める人や団体には、事業内容、運営、広報、助成金など、多方面から情報を提供し、活動の第一歩を応援しました。特に広報面では、センターの機能を最大限に活用し、効果的な情報発信を支援しました。
- ・活動経験のある活動者や団体等には、課題や現状に応じて他の事例を紹介するなど、持続可能な活動につながる伴走支援を行いました。
- ・地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」や登録団体の活動がより活発になり、地域で継続的に活躍できるよう、コーディネート依頼には丁寧に対応しました。

1) 地域人材ボランティア事業「西区街の名人・達人」

①新規登録の促進

- ・2025 年度の新規登録は 12 件、登録削除は 32 件で、年度末の登録件数は 135 件となりました。3 年ごとの更新時期にあたり、高齢化やライフスタイルの変化により活動を見直し、登録削除に至る活動者が見られました。
- ・登録データを管理していた Access に課題が生じたため、kintone へ移行し、ホームページと連動させました。
- ・活動を始めたい、広めたい方には新規登録を呼びかけ、依頼者側の選択肢を広げました。
- ・新規登録者は速やかにデータベースを更新し、紹介記事をホームページに掲載しました。また、ガイドブックは必要に応じて増補版を作成しました。
- ・「にしとも音楽祭」をきっかけに、新規登録者とコーディネート依頼が増加しました。

No.	登録日	分野	小分類	登録 No.	登録名
1	4/18	法律・経済	組織・運営・診断	317	星印堂パートナーズ
2	4/28	音楽	ボサノヴァ・ピアノ弾き語り・演奏指導等	318	岩崎桂子
3	7/24	音楽	ウクレレ	319	美姫ヒカル子
4	8/4	美容・健康	ケア美容	320	佐々木もえこ
5	8/18	芸能	マジック・手品	321	横浜マジカルグループ
6	9/14	美容・健康	歌唱療法	322	佐々木もえこ
7	9/28	音楽	オールディーズ弾き語り	323	ジュテム元之介

8	11/2	スポーツ・体操	ヨガ	324	英語でヨガストレッチ
9	11/29	IT	Canva デザイン・広報	325	Canva 公式クリエイター やまもと
10	12/22	美術・工芸	パステル画	326	パステルンルン
11	1/11	IT	スマホ・動画・写真	327	黒田耕治
12	1/11	美術・工芸	リボンアクセサリー、リボンリ ース	328	Sunny Balm

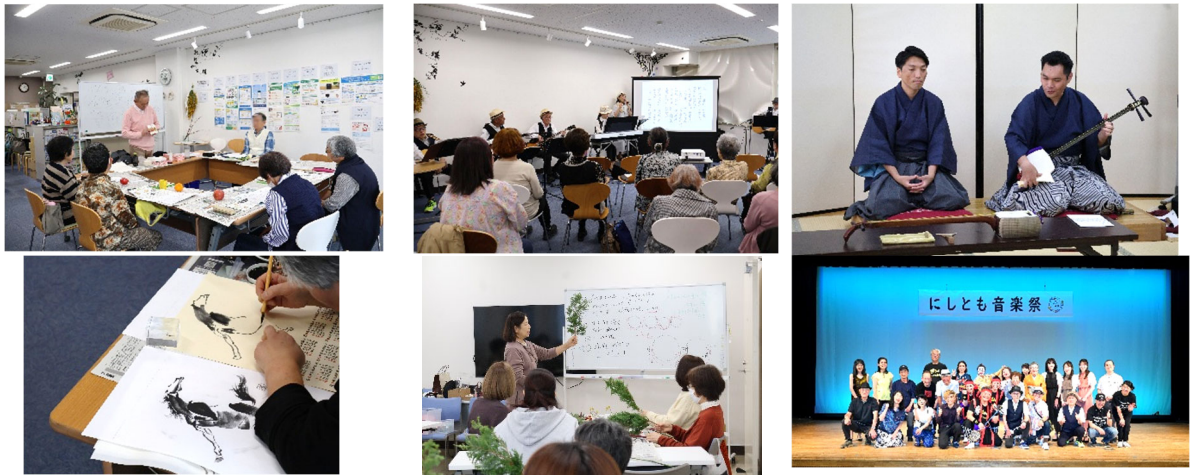
②体験会の実施

- ・今年度は新規登録後にセンターを活用して自主的に事業を開始する登録者が多く、体験会の実施はありませんでした。

③連携事業の実施

- ・センターのハブ機能を活かし、連携事業を実施することで、活動の周知と活性化につなげました。
- ・名人・達人の活動を紹介するショート動画を作成し、YouTube に掲載。活動紹介ツールとして活用され、コーディネート依頼につながりました。
- ・今年度は、区民利用施設と共催した連携事業もあり、活動者が参加しやすい環境づくりと、新たな参加者層の開拓につながりました。（8/23 常磐津ってなあに？ in 横浜@西前小コミュニティハウス）
- ・「にしとも広場アート展」を主催し、多彩なアート活動を紹介。来場者アンケートを分析し活動者に共有。次年度事業にも活かします。
- ・「にしとも音楽祭」を共催し、音楽活動者の発表機会を創出。活動者同士のつながりが深まり、地域の祭りなどへの出演機会が増えました。

開催日	イベント名	名人・達人	参加人数
4/4	げんき絵手紙サロン in にしとも	川口整	5名
5/10	うたごえ広場	音楽ボランティア一座にし	AM9人・PM11人
6/22	にしとも音楽祭@西公会堂	登録音楽活動者12組	約250名
7/26	着付け入門	清水玲子（地域大OB）	3名
7/27	スマートシティをデザインしよう！	西田俊章	申込者なく開催中止
8/23	常磐津ってなあに？ in 横浜 @西前小コミュニティハウス	岸澤満佐志	10名（見学者含む）
11/1-30	にしとも広場アート展	登録アート活動者13組	アンケート回答者数137名
11/29	水墨画で描く干支カレンダー	吉田紅峯	8名
12/7	クリスマスリースをつくろう	Flowerdesign ♪陽 Haru	17名
12/7	クリスマススワッグをつくろう	Flowerdesign ♪陽 Haru	12名
3/29	にしとも音楽祭 mini	嬉氣利誠・コーケンボー	13名



④活動先のコーディネート

- ・コーディネート相談では、依頼者のニーズを丁寧に聴き取り、依頼者・ボランティア・センターの三者が力を発揮できる形を意識して調整しました。
- ・双方にとってステップアップの機会になるよう、活動内容を具体的に共有し、丁寧なコーディネートを行いました。
- ・ボランティアの長所を活かせるよう、活動先に出向いて様子を把握し、適切なマッチングにつなげました。
- ・3名の活動先取材し「地域活動訪問レポート」としてホームページに掲載し、新たな周知につなげました。
- ・新たな依頼を増やすため、新しい分野の施設や団体にも事業を周知しました。

【2025年度コーディネート実績】申込件数：58件／成立件数：47件／保留：1件

⑤登録更新とガイドブックの作成

- ・3年ごとの登録更新を実施し、データベース・ホームページを最新情報に更新しました。
- ・就労支援事業所に依頼し、ガイドブックを300部作成しました。
- ・ガイドブックは登録する自治会町内会、地区社会福祉協議会、高齢者施設、学校等に積極的に紹介し、地域での人材ボランティアの活躍を促進しました。



2) 登録グループ・団体

①登録の呼びかけ

- ・2025年度の新規登録は11件、登録削除は0件で、年度末の登録団体数は187団体となりました。

- ・センターに登録することで、ミーティングスペースや機材の利用に加え、運営面への支援や提案が受けられることを説明し、事業の共催や他施設・他団体等へのコーディネートに繋がりました。
- ・登録により、チラシのホームページ掲載、センター内掲示・配架、センターで活動する場合は月間イベントカレンダーへの掲載等、広報面のメリットがあることを伝えました。
- ・センターの情報発信機能を目的に登録する団体が増えました。

②活動のステップアップと伴走支援/③団体との連携事業で活動の効果を高める

- ・ヒアリングや相談で把握した課題・ニーズをもとに、団体と話し合いながら伴走支援を行いました。
- ・センターと協働で事業を実施することで、団体の活動が広く周知され、区内での認知が高まりました。
- ・センターでの活動実績をもとに、関連機関、地域福祉施設、区民利用施設へつなぎ、地域に根ざした活動の展開を後押ししました。

団体名	開催日	内容	連携先	参加者数等
NPO 法人キッズディレクター	6/23・30	「西区の好き！」を伝える 60 秒動画を作ろう	にしとも広場・西区区政推進課	11 名
あすのち	7/26・27・8/23	夏休みの宿題を終わらせよう！	浅間コミュニティハウス・平沼小学校・浅間台小学校	のべ 29 名
フォトラボ・ルーチェ	コンテスト募集期間 8/1-9/30	西区商店街フォトコンテスト商店街紹介写真	西区地域振興課	西区公式 Instagram 掲載
NPO 法人キッズディレクター	8/18・19・20	コマドリアニメを作ろう	つむぎこども教室・西区地域自立支援協議会	
あすのち	12/27	冬休みの宿題を年内に終わらせよう！	浅間コミュニティハウス・平沼小学校・浅間台小学校	10 名
NPO 法人おれんじハウス	1/10	おれんじ子ども食堂・交通安全教室・ミニミニゲームで冬でも遊ぼう	藤棚地区センター・藤棚地域ケアプラザ・境之谷こども口グハウス	配食数：100 食

3) 地域人材ボランティア及び登録団体、地域活動者の研修・交流会

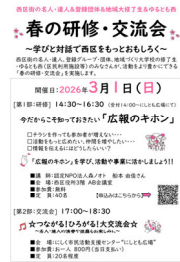
- ・街の名人・達人、登録団体、地域づくり大生、地域活動者が参加する研修・交流会を開催しました。
- ・アウトリーチやヒアリングで把握した課題を研修内容に反映し、活動者が今後の見通しや新たなヒントを得られる機会としました。

- ・研修会と交流会を通じて、地域の中で新たなつながりが生まれ、拡がりを促しました。

第1部：研修会 今だからこそ知っておきたい「広報のキホン」

講師：認定NPO法人森ノオト 船本由佳氏 参加者数 29名

第2部：交流会 街の名人・達人による披露3組 参加者数 20名



4) 「西区民まつり」への参加

- ・地域子育て支援拠点、登録団体、地域人材ボランティアと合同でスタンプラリーを実施しました。
- ・活動の発表や区民との交流の場となり、区役所と連携してセンターや活動団体を多世代に周知しました。



4. 地域支援事業

◆地域で活動する人と活動地域との丁寧なコーディネート

- ・「何かボランティア活動してみたい」「活動したいが、どこから始めればよいかわからない」といった相談に対し、センターのハブ機能を活かして、地区社会福祉協議会、自治会町内会、福祉施設、NPO や各種団体などにつながるきっかけを作りました。
- ・活動したい人と地域のニーズを丁寧に把握し、双方にとってよい循環が生まれるよう、小さなステップから始められる伴走支援を心がけました。

1) 地域づくりの人材を養成する講座

① 「西区地域づくり大学校」修了生の活動支援

- ・学びが実際の活動として形になり、地域に根づくよう、区と協働して周知・コーディネート・伴走支援を行いました。
- ・修了生向けの補助金や助成金を提案し、持続的な活動の実現を支援しました。

② 区制80周年記念「西区今昔かるた」関連事業

- ・「西区今昔かるた」を活用し、多様な人々が参加できる事業を、区およびかるた伝道師と協働して企画・運営しました。
- ・7月23日には、市庁舎アトリウムにて大規模イベントを実施し、インクルーシブな活用方法を実践して注目を集めました。
- ・制作者と伝道師による座談会を開催し、情報紙『にしとも広場』第25号で特集記事として紹介しました。

③ 地域活動入門講座「じぶんらしい第三の居場所づくり」

- ・西区地域づくり大学校の休止に伴い、地域活動のはじめの一步を応援する入門講座を開催しました。講座をきっかけに、新たな人材とのつながりが生まれました。
- ・西区外の地域活動の現場をバスで訪問し、活動への想いや視点、組織運営等について新たな学びを得ました。
- ・センターの職員研修も兼ねて開催し、参加者と共に学び合いました。

日時	内容・講師・訪問先	参加人数
1/31 14:00-16:30	講義：住んでいるまちに目をむけて～自分らしい時間&居場所とは～ 講師：齊藤ゆか氏（神奈川大学人間科学部教授）	16名
2/11 12:00-16:30	地域活動訪問バスツアー ①宮ノ前テラス（泉区）②みんなの絵本のおうち（泉区）③ちえのわち ユンチュンカフェ（戸塚区）	15名
2/22 12:00-15:00	ランチ交流会 *任意参加	8名

【参加者アンケートより】

【第1日目：講義】

- ・小さなことの積み重ねで、やりたいことを実現できそうだと思います
- ・「アクティブライフの確立化」テーマはとても自分にマッチしていた
- ・自分がやりたいことを小さくやって、少しずつ広げたらなあと思いました

【第2日目：バスツアー】

- ・自分のやりたいことを楽しんですることが大切だと思います
- ・学生さんのアルバイトよりもボランティアという、活動と場への思いが伝わりました
- ・感動の中心として、あるべき想いを大切に。ぶれない大切さは大事なことだと思います
- ・地域に必要とされ、できた居場所だと思います
- ・市街化調整区域という難しい土地で一軒ずつ活動場所を広げ、地域と繋がって来られた地道な努力に敬服します

2) 地域のつながりづくり支援

①にしとも「みんなのゼミ」

- ・暮らしの中の疑問や気になることを、安心して語り合える少人数の対話の場を作りました。
- ・対話を通じて、参加者が日常の気付きや関心を共有し、次のテーマが自然に生まれる場となりました。
- ・「話す・聴く・受け止める」という安心できる関係性が生まれ、地域でのつながりづくりの第一歩となりました。

開催日	テーマ	参加者数
4/27	年収103万/130万の壁	5名
6/1	独居女子の暮らし 工夫と備え	9名

7/6・20	キャッシュフローを作成しよう	7名/6名
8/10	わたしへの手紙を書いてみよう	7名
9/13	はじめてのAI チャット GPT 編	8名
10/19	普段使いのスカーフアレンジ術	11名
11/23	わたしへの手紙を書いてみよう2	4名
12/2	サイバー詐欺から身を守るコツ	11名
1/17	MY PLAN をたてて充実した1年を	6名
3/22	これからの私を大切にする暮らしの整え方	13名

②にしともるーむ 毎週火曜日 16:00~17:00 *ボランティア5名活動中

- ・近隣小学校の国際教室と連携し、外国につながる子ども達の参加を呼びかけました。母語支援ボランティアからの紹介により、参加児童が増えました。
- ・浅間コミュニティハウスと連携し、夏休み出張教室を実施しましたが、参加者はありませんでした。次年度の検討課題とします。
- ・タイ国タップマー市の市長や行政幹部、地域役員等の視察に対応しました。

③地域のまつり等への参加

- ・第二・第4・第五・みなとみらい地区のまつり、にしく名人・達人まつり、にこまちフォーラムにブース出展し、地域への愛着を再認識するワークショップ「西区のココが好き」を実施しました。
- ・センターの機能や事業を周知し、地域とのつながりを強化しました。

開催日・名称	開催場所
7/19 第2地区ふれあいまつり	西前小学校
7/19 第五地区 納涼まつり	西地区センター・西公会堂
10/5 みなとみらい あきまつり	高島中央公園
2/21 にこまちフォーラム	西公会堂
3/7 第4地区 みんなのまつり	一本松小学校



5. 区と区民利用施設等との連携事業

◆施設間連携と学びあいによる、区民利用施設からの「地域力アップ」

- ・これまでの連携を活かし、センターとの共催事業を企画・実施しました。
- ・共通の課題を見だし、合同研修会を実施したことで、センターと各施設が日頃から運営や事業について相談し合える関係性を育みました。

1) 区民利用施設等との連携会議「ゆるとも西」の実施

- ・コロナ禍を経て変化した現代における公共施設のあり方について、講師を招いて勉強会を実施し、施設運営とまちづくりへの効果について共に考える機会を作りました。
- ・自主事業のあり方や、地域福祉・まちづくりへの発展性について理解を深めました。

講座名：公共施設と市民参画による「まちづくり」

日 時：7月9日（水）15:00～17:00

講 師：NPO 法人ハズオン！埼玉 常務理事 西川正氏

参加施設・機関数：14 施設／参加者数：23 名

2) 区民利用施設自主事業カレンダー

- ・各施設の自主事業を一覧で確認できるカレンダーを半期ごとに作成・共有しました。
- ・センターにおいては、問合せや相談の際に活用されましたが、施設同士が、企画段階から連携して自主事業を検討するには至りませんでした。

3) センター事業における区内施設等との連携（共催事業）

●みんなで！みちあそび in にしとも広場

（西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート、浅間台みはらしプレイパーク、公益財団法人よこはまユース、よこはま布えほんぐるーぷとの連携）

- ・熱中症リスクを考慮し、今年度は初めて6月に実施しました。
- ・西前小学校6年生と、よこはまユースが運営する「さくらリビング」から高校生がボランティアとして参加しました。

日時・場所・参加者数	連携先
6/8（日）10:00-12:00 場所：にしとも広場・屋外の全面スペース・ 1 AB 会議室 参加者数：子ども 37 名・大人 34 名・ ボランティア 8 名 （西前小 4 名・よこはまユース 4 名）	共催： 西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート 浅間台みはらしプレイパーク 協力： 公益財団法人よこはまユース・ 西前小学校・よこはま布えほんぐるーぷ



● **精神障がいを理解する講座**（生活支援センター西とパソコン工房 DELTA との連携）

- ・「自分らしい働き方」をテーマに、多様な人々が共に学び、暮らしやすい地域づくりを考える機会としました。

日時・場所・参加者数	内容・連携先
3/14（土）14:00-16:00 西区役所3B会議室 参加者数：28名／当事者の登壇者2名	「はたらく」とリカバリー（回復） ～自分らしい働き方とは～ <ul style="list-style-type: none"> ・「働き方」のいろいろ・施設の紹介 ・当事者のお話（2名） 共催：生活支援センター西 協力：パソコン工房 DELTA

● **「出張にしとも広場」**（西前小学校コミュニティハウスとの共催）＊再掲

- 8/23 西区街の名人・達人連携事業「常磐津ってなあに？in 横浜」
 @西前小学校コミュニティハウス 参加者数 10名（見学者含む）

4) 中央図書館との連携

- ・中央図書館サービス課と連携し、図書館に親しむ見学ツアーを企画・共催しました。
- ・10代から80代まで多世代が参加し、区内の社会資源を知り、活用度を高める機会となりました。

日時・場所・参加者数	感想等
10/3（金）10:00-11:30 図書館まると見学ツアー ～見て・聞いて！図書館活用術～ 参加者数：18名	<ul style="list-style-type: none"> ・書庫を見られて、興味深く楽しかった ・大人向けのツアーがあって良かった ・おやこフロアが完成したことは知らなかった ・電子書籍を利用してみたら、便利でした ・図書館をより身近に感じられました



- ・「西区読書推進連絡会議」に参加し、「第三次西区活動推進目標」策定に協力しました。
- ・バリアフリー図書の展示や点字図書を設置しました。

5) 神奈川大学との連携

- ・神奈川大学と西区の連携協定に基づき、市民活動分野での連携を推進し、定例会でタイムリーに情報共有しました

6) 地域団体（自治会・町内会・地区社会福祉協議会等）との連携

- ・地縁組織とセンターが連携することで、新たな活動者を地域につなげるきっかけづくりとして、地区支援チーム会議に出席しました。
- ・地縁組織の現状と課題を把握するため、取材やアウトリーチを通じて現場に積極的に足を運び、顔の見える信頼関係を築きました。
- ・第二地区、第4地区、第五地区、みなとみらい地区のお祭りに参加し、センターを周知するとともに、SNSで発信しました。

6. 施設運営管理

◆気軽に立ち寄れる、市民活動・地域活動の「玄関口」

- ・地域活動や暮らしを豊かにする情報を収集・発信し、分かりやすい掲示・配架に努めました。
- ・来館者との対話を大切にし、職員自らが情報を受発信することで、立ち寄りやすく居心地のよいセンター運営を心がけました。
- ・活動に必要なスペースや機材の貸し出しを行い、使用方法について丁寧に対応しました。
- ・ホームページに問合せフォームを追加し、24時間以内の回答を徹底しました。
- ・「にしとも広場アート展」来館者へのアンケートを実施し、寄せられた意見を次年度事業に活かします。

1) ミーティングスペースの活用と機器の予約

- ・年間利用件数は3,244件（対前年比88.2%）、利用人数は8,578人（対前100.4%）、印刷機利用件数は208件（対前年106.1%）と周年事業で賑わった昨年度を上回る利用がありました。
- ・予約の管理・調整をシステムで共有し、公平な利用を徹底しました。
- ・利用予約のない時間帯は登録がなくても利用ができることが口コミで子育て世代に広まり、利用につながりました。次年度は、予約のない時間帯の利用についてさらに周知を強化し、多様な人々が利用しやすいセンターになるよう工夫します。
- ・機器の予約管理、消耗品補充、故障対応を速やかに行いました。
- ・センター内常設の「フードドライブ回収ボックス」への寄付をきっかけに、初来館する方が増え、その後の利用につながりました。

2) 多様な情報と参加者同士の出会いのある場づくり

- ・幅広い分野の市民活動に関するチラシを分野別に配架し、来館者や相談者に適切な情報提供を行いました。
- ・講座・イベントでは、参加者同士が知り合える場を意識的に設け、少人数での対話の機会を積極的に作りました。

3) 子育て世代が気軽に立ち寄れる場づくり

- ・キッズコーナーを設置し、小さな子ども連れでも安心して利用できる環境を整えました。
- ・安全性に配慮し、ケガや誤飲の危険がないよう常時確認しました。
- ・講座・イベントは子ども連れにも配慮した会場設営としました。
- ・託児付き講座は、今年度は実施しませんでした。

4) 施設のリスク管理

- ・開館日は業務マニュアルに基づき、設備・機材の点検を徹底しました。
- ・掲示物の安全確認（画鋲の落下など）を日々実施しました。
- ・緊急時は区へ速やかに報告し、連携して対処しました。
- ・鍵の管理、機材と備品の在庫管理を徹底しました。

5) 文書管理

- ・施設運営要領に基づき、様式等を用いて運営し、必要に応じて区と見直しを行いました。
- ・業務マニュアルを現状に合わせて更新し、運用管理を徹底しました。
- ・個人情報を含む書類は施錠保管し、情報漏洩の防止を徹底しました。
- ・文書の保管期限を定期的に確認し、溶解処理による廃棄など適切に管理しました。
- ・緊急時対応マニュアルを現状に合わせて修正しました。

6) 運営事業評議会の実施

- ・ 区長から就任依頼を受けた専門家、学識経験者、地域代表などで構成される運営事業評議会を開催し、センターの事業や役割、地域の課題やニーズについて意見交換しました。
- ・ 評議会での意見等は区と共有し、センター運営に活かします。

7. 職員配置体制・資質向上への取り組み

◆職員一人ひとりのスキルとチーム力のアップ

- ・ 職員自身が情報の受発信拠点となり、ネットワークの結節点として中間支援のスキルを身につけられるよう、取材などを通じて地域活動の現場に積極的にアウトリーチしました。
- ・ 属人的にならないよう、相談対応やコーディネート内容を随時共有し、チームとしての対応力を高めました。
- ・ 地域情報を毎月2回の会議で共有し、センター全体で地域理解を深めました。
- ・ 地域活動へ積極的に出向き、コミュニケーションを通じて生きた情報の橋渡しを行い、信頼関係の構築を大切にしました。

1) 対話とアウトリーチで「生の声」を聴く

- ・ 日々の会話から背景や状況を察し、適切な情報提供と伴走支援に活かしました。
- ・ 現場を訪問し、活動を体感しながら多様な参加者の「生の声」を聴き、視野を拡げました。
- ・ アウトリーチで得た情報を職員間で共有し、スキルアップにつなげました。
- ・ アウトリーチをきっかけに相談件数が増加し、丁寧に対応しました。

2) 職員研修

- ・ 職員が参加する研修を年4回実施しました。
- ・ 公開研修では一般参加者と共に学ぶ機会となり、地域に開かれたセンターの周知にもつながりました。

開催日・形態・参加者数	内容・講師等
4/11 非公開	個人情報保護研修
9/15 公開 一般参加7名 登壇者(当事者とその家族等)4名	まちかどピクチャーズ上映会 in にしとも広場 協力：当法人 まちかどケア担当者
1/27 公開 一般参加8名	いざという時役立つ救急救命 講師：一般財団法人エマージェンシー・メディカル・レスポندر財団 代表理事 河波弘晃氏
1/31 公開	地域活動入門講座 第1日目

一般参加 12 名・区職員 1 名 職員 3 名	講義：住んでいるまちに目をむけて ～自分らしい時間&居場所とは～ 講師：齊藤ゆか氏（神奈川大学人間科学部教授）
2/11 公開 一般参加 9 名・区職員 1 名 職員 6 名	地域活動入門講座 第 2 日目「地域見学バスツアー」 ①宮ノ前テラス⇒②みんなの絵本のおうち ⇒③ちえのわチュンチュンカフェ

3) 他区の市民活動支援センターとの情報交換と交流

- ・市民局主催のネットワーク会議に参加し、各区の先進的な取り組みや課題について情報交換しました。
- ・2024 年度に作成したアクションプランの取組を共有会で発表し、他区と運営ノウハウを共有しました。

4) 外部研修への参加

- ・各職員が自ら外部研修に望んで参加できるよう、スキルアップの機会を積極的に設けました。

開催日	内容	主催
5/16	横浜市新任職員向け研修①	横浜市市民局・教育委員会
5/23	中間支援・NPO 事務局長交流会	横浜市民協働推進センター
6/13	生活創造空間にし研修①～移動支援バス「おでかけ3」の現在、そしてこれから～	生活創造空間にし
7/2	中央図書館ボランティア交流会	横浜市中央図書館
7/7	国際協同組合フォーラム	国際協同組合年フォーラム実行委員会@関内ホール
8/22	まちの安全・安心を広げるための交流会	横浜市民協働推進センター
9/4	生活創造空間にし研修③～〇〇詐欺にだまされない!! ～	生活創造空間にし
9/9	県ボランティア活動支援施設 CEO ミーティング	神奈川県民活動サポートセンター ボランティア活動サポート課
9/25	横浜市新任職員向け研修②	横浜市市民局・教育委員会
10/1	西区デザイン基礎研修	西区役所 広報相談係
11/7	生活創造空間にし研修④～子ども食堂の現在、そしてこれから～	生活創造空間にし
11/21	空き店舗活用セミナー	横浜市経済局
12/4	よこはま地域福祉フォーラム	横浜市社会福祉協議会
12/19	KIITO 社会課題解決手法ワークショップ	横浜市民協働推進センター
2/5	生活創造空間にし研修⑤～新しい地域づくりを考える～	生活創造空間にし

5) 職員間の情報共有

- ・全職員が集まる「はちとべ会議」を月2回実施し、事業進捗や相談対応の共有を行いました。
- ・日々の業務手順等について作業マニュアルを作成し、ノウハウを引き継げる体制づくりに努めました。
- ・Teamsを活用し、職員間でリアルタイムに情報共有を行い、作成した資料等はOneDriveに保存して即時確認できるようにしました。
- ・外部への広報については、掲示・配架・送付先リストを作成・更新し、情報をタイムリーに提供しました。
- ・相談対応はデータベースに蓄積し、組織として共有しながら丁寧な対応を心がけました。その場で回答できない場合は一旦預かり、後日回答するなど誠実に対応しました。

8. 西区役所との協働

◆地域振興課及び関係課との協働

- ・センターが「西区に暮らす人々、働く人々、訪れる人々が、西区に愛着を持ち、つながりを育み、力を活かしあう地域協働の総合拠点」となるよう、地域振興課を中心に区役所・関係課・関連機関との協働を進めました。
- ・必要な情報をタイムリーに共有し、活動者や団体が力を発揮できる機会や場を協働で創出しました。
- ・区内3つの地区支援チーム会議に出席し、センターの機能を周知しました。
- ・関連部署からの視察やヒアリングには区と協働で対応し、情報共有を行いました。

1) 協働契約に基づく運営

- ・区役所とNPO法人が協働で事業に取り組むことで、双方の強みを生かし、相乗効果のある事業や取り組みを検討しました。
- ・定例会議を月1回実施し、日常的にも事業や関連情報を随時共有しました。
- ・年度終了後には「協働に関する相互検証シート」を双方で作成し、協働契約に基づくセンター運営について振り返りました。

2) 生涯学習講座での連携（区制80周年記念「西区今昔かるた」関連）

- ・「西区今昔かるた」伝道師の活動や、かるたを活用した事業の企画・実施に向けて地域振興課と連携しました。
- ・情報紙『にしとも広場』第25号では、制作者と伝道師の座談会を特集し、地域への愛着や地域活動への想いを発信しました。

開催日・場所	内容
7/23 市庁舎アトリウム	西区役所主催「西区今昔かるたフェスティバル」

参加伝道師 7 名	参加者数：170 名
1/17 西前小コミュニティハウス 参加伝道師 6 名	伝道師主催「西区今昔かるた」大会 参加者数：AM14 名 / PM4 名

3) 区役所関係課・関係機関との連携による事業の実施

- ・地域振興課だけではなく、「西区地域自立支援協議会」「地域センター会議」などのネットワーク会議、西区社会福祉協議会の「ボランティア・市民活動部会」とも連携し、情報共有を活発化させ、事業の充実につなげました。

西区地域自立支援協議会とその関連事業

開催日と会議名等	内容等
6/12 代表者会議	R7 年度 協議会及び各部会活動計画等について
11/13 担当者会議	障がいのある方の防災講座～浸水害の備え～
3/12 代表者会議	R7 年度 活動報告、R8 年度活動計画等について

地域センター会議

開催日	内容
6/6	「生活支援センター西」の取組みや役割、今後の連携の機会づくりについて
8/4	第 5 期にこまちプラン策定に向けた意見交換
11/7	SSW の役割について、日頃の課題共有と今後の連携につなげる機会づくりについて
2/13	スキルアップ研修 講師：又村あおい氏

西区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動部会と関連会議

開催日	内容
6/4 会員合同分科会	第 5 期にこまちプランについて 意見交換等
9/1 第 2 回ボランティア・市民活動分科会	誰かの“やりづらさ”に気づくって？ ～やさしい関わりのヒント～ 無限夢工房 樋野所長より
12/2 こどもの居場所情報交換会	各参加団体の近況報告 意見交換「居場所の『見守り・気づき・つなぎ』」について
2/16 第 3 回ボランティア・市民活動分科会	「支援する・される」を超えたえた協働のかたち —障害のある人も関わるボランティア活動の事例から—